

## 人生の虚しさ vs 主イエスのリアリティ(実際)

### I 空の空、伝道者は言う。空の空、すべては空である。(伝道の書1:2)

聖書の中に「伝道の書」という書があります。

その書は、B.C.977 年頃、イスラエルで栄華を極めた王、ソロモンが書いたものです。

彼は、イスラエルの民を治めるため、神から最高の知恵を賜りました。

ソロモンは日の下での墮落した人類の、腐敗した世にある人生を記述しました。

彼は心を定め、天の下で行われる全てのことを尋ね求め、探り出そうとしました。

**前にあったことは、後にもあり、前に起こったことは、後にも起こる。日の下に新しいものは何もない。**(伝道の書1:9)

これが彼の尋ね求めた結果の結論でした。

自然界の現象によれば、循環して行われているすべてのことが、世代から世代まで同じままであり、すべては疲れさせ、新しいものは何もないことを彼は観察しました。

**わたしは日の下で行なわれるすべてのわざを見たが、見よ、すべては空であって、風を捕らえるようなものである。**(伝道の書1:14)

賢い王の、知恵によるそのような結論は、墮落した人のむなしい人生の歴史と考えられます。本書における彼の結論は、その終局が悲惨な人の悲歌のようです。(伝道の書ライフスタディ、第1編)

### II 彼はすべてを造り、時にかなって美しくされた。また、彼は彼らの心に永遠を置かれた……。(伝道の書3:11)

神は初めに、人がキリスト、実は神ご自身を受け入れ、人の内容となるようにと、人をご自身のかたちに、人の霊を持つように創造されました。(創世記1:26)

創造の初めに、神は決して人が空しさを味わうように造られなかったのです。

同じ「伝道の書」の中で、神は人の心に永遠を置かれたと言っています。

この宇宙にあるものは、一時的なものと永遠のものがあります。

聖書の他のところで、このような言葉があります、

**わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目をとめます。なぜなら、見えるものは一時的ですが、見えないものは永遠であるからです。**(Ⅱコリント4:18)

この節は、伝道の書第3章11節のソロモンの言葉の正しい説明です。

人はどれほど金持ちになり、成功したとしても、やはり、空しさを感じています。

人は、深いところで永続するものを求めています。永続するものだけが永遠のものです。

人の心にある永遠は、神が植えた、一種の目的のある感覚です。

わたしたちには、神以外のものは何も満足させることはできないという感覚があります。神だけが、わたしたちの目的のある感覚を満足させることができます。

ソロモンは、当時、結局すべてのことは過ぎ去り、虚しく、空であると結論づけました。そして、その書の最後で、その結論に基づく勧めをしています。

**「あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ」**(伝道の書12:1前半)

神だけが人を満足させることを望み見て、ソロモンの言葉は終わりました。

Ⅲ そして言は肉体と成って、わたしたちの間に幕屋を張られた。それは恵みと実際に満ちていた。わたしたちは彼の栄光を見た。それは、父からのひとり子としての栄光であった。（ヨハネによる福音書1:14）

ソロモンの後、およそ千年の時を経て、神は、ソロモンの苦悩を解決できるばかりか、神の御心を完成する方、キリストを人類に遣わされました。

神は不思議なことをなされました。

聖書は、神がイエスという一人の人の中で、人のところに来られたことを証ししています。

神がキリストの中で人として肉体となった時、彼は恵みと実際と共に来られました。

隠れたところにおられ、近づき難い、とらえようのない神は、わたしたちにリアルな実際の方となって来られました。

わたしたちは、恵みと実際が、イエス・キリストにおいて人格化されているのを見ます。

このかたは、墮落のない真の人として、人の生活を送り、人の墮落した罪のために、十字架で身代わりの死を通過しました。

そして復活し、天に昇り、わたしたちの救い主として資格づけられ、命を与える霊となりました。

彼は今、わたしたち人の霊の中に入ってくるのできる、命を与える霊です。

Ⅳ 「もしあなたがたが真に彼に聞き、そして彼の中で、イエスにあるあの実際にしたがって教えられているのであれば、…」（エペソ人への手紙4:20-21）

イエスが復活の神として、人の中で人の命となったことを経験して書かれた新約聖書の中に、エペソという都市に住んでいた人たちに書き送られた手紙があります。

その手紙は、神の実際、リアルな、触れることのできる神はイエスの中にあると言っています。

恵みと実際はパーソン、すなわち肉体と成り、人性において表現された三一の神のことを言っているのです。

イエスは主であり、今、人の中で命を与える霊です。

主イエスの名を呼んで、彼を受け入れるなら、彼は命を与える霊としてわたしたちの中に入り、わたしたちの中で生まれます。

なぜなら、「主の御名を呼び求める者はすべて救われる」からです。

（ローマ人への手紙10:13）

この方、イエスを主として受け入れるなら、彼は人の中に入り、人の霊と一つ霊となり、人の命となって、神をリアルな、空ではない実際として、人を満たします。

彼がわたしたちの中で生まれる時、わたしたちは再生されて別の人になり、もはや元の人ではありません。

彼を呼び求める人は、神から生まれて、神の子供たちとなる特権を持ちます。

主を信じ受け入れる人は、彼と一つの実体、神・人である神の子供たちとなります。

その人は神によって創造され、神のかたちを持つだけでなく、また神から生まれた新しい人の一部です。

これこそ目的のある人生の実際であり、空しさからの完全な解放です。

すべて労苦し重荷を負っている者は、わたしに来なさい。そうすれば、わたしはあなたがたに安息を与える。（マタイによる福音書11:28）

神の実際はイエスの中にあります。彼は実感できる、経験できるリアルな神です。

彼をわたしたちの心に迎え入れる時、もはや人生の空しさは、人生の実際に変わります。

# キリストを経験する一彼のゆえに満足する

437

(英 1025)

この世を捨て去り、キリストもとめる;

すべてはむなしい、かれこそまんぞく。

(復) ゆたかなキリスト、ことばに尽くせず!

すべてにまされる、あまさをあじわう。

- 2 キリスト以がい、もとめるものなし、  
世を得てむなしい、主を得てまんぞく。
- 3 あらゆるとみ持つ 巨だいなこの世も、  
ちいさいころの むなしさ満たさず。
- 4 キリストわがうた、よろこび満ち満ちつ;  
たからはキリスト、われらは主に住む!

# 福音一呼び求める

733

(英 1061)

主 イエスよ、来たりませ! 悔いたるところに;

む なしくつかれたるところに来ませ。

(復) ところに、ところに、主イエスよ来ませ や!

いま主よ、来たりて、ところにやどれ や!

- |   |                            |                       |
|---|----------------------------|-----------------------|
| 2 | 主イエスよ、来たりませ!<br>つみの荷を解くため、 | わがすくいとなり、<br>ところに来ませ。 |
| 3 | 主イエスよ、来たりませ!<br>いのちのれい住みて、 | われをあらたにし、<br>支はいしたまえ。 |